



Title	a+a 美学研究 第13号 裏表紙
Author(s)	
Citation	a+a 美学研究. 2019, 13
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90106
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

はじめに 002

論考

3Dプリンタ時代の工芸家像

北村仁美 004

現代写真と古陶磁

宮川智美 018

無装飾から超装飾へ

高安啓介 032

匂いのデザイン

岩崎陽子 052

長寿時代を生きるための運動のデザイン

近藤存志 066

人間の目から考える景観デザイン

山内貴博 076

現代的ランドスケープと公共空間

佐藤紗良 090

人間の脳・機械の脳・環境の脳

高安啓介 106

デザイン哲学の陥穽

——スローターダイクにおける「島化」と「泡塊」

田中 均 120

解説

社会デザイン

批判デザイン

思弁デザイン

食のデザイン

高安啓介 132

エッセイ

裁量労働制の寓話——ヴェネツィアの彫刻家から博多の仙屋まで

橋本順光 144

風をデザインする

平井直子 150

Gマークは「共有と協働」の時代へ

森山明子 154

執筆者紹介 160

デザインの仕事がいかに変化しているならば、デザインの概念もまた昔と同じではありえません。今日の事情に照らして、デザインの概念だけでなく、工芸・装飾・建築・景観・環境などが一体何であるのかを掘り下げて問うてみたいと思います。たしかに、この静かな変化について知らなくても、デザインの仕事はできるでしょうし、デザインの研究もできるでしょう。けれども、私たちの思考の前提がどのように変化しているか自覚できたとき、何を克服すべきなのか、何を維持すべきなのか、考える糸口が見出されるにちがいません。